

た。腫瘍に石灰化は見られず、血清 Ca も正常であった。 ^{99m}Tc -EHDP による骨シンチで左肺門部腫瘍にほぼ一致する集積が見られたが、他に異常集積はなかった。患者は肝転移、皮膚転移などで12月に死亡したが、経過中、胸郭の骨への浸潤、転移は認められず、骨シンチの集積像を腫瘍への集積と判定した。

石灰化を伴う腫瘍の ^{99m}Tc -リン酸化合物の取り込みはかなり報告されているが、本症例のような未分化がんへの集積の報告は少ない。機序として腫瘍内部の壊死あるいは周囲の炎症への取り込みが考えられるが、腫瘍自体への取り込みも否定できない。

13. ^{99m}Tc -DMSA の使用経験

中村 良文 野村 恒治
山本 茂
(鳥取県立中央病院・放)

Lin, T.H. らにより ^{99m}Tc -DMSA が報告されて以来、 ^{99m}Tc のすぐれた物理的性質と被曝線量軽減のために、広く臨床上に使用されつつある。

昭和52年7月より諸種腎疾患59例に使用し、腎イメージ描画の優秀性を認めた。レノグラムパターンとの比較では機能絶絶型のものでもある程度の腎イメージが得られ、腎の形態学的診断に役立った。シンチカメラを用いてのレノグラム検査と併用し、関心領域の設定に非常に有用でレノグラムの精度を向上させることができた。

腎腫瘍、多発性嚢胞腎、腎奇形などの症例を報告した。

14. Neuroblastoma の2例

棚田 修二 河村 正
上田 幸介 石川 寅美
飯尾 篤 高橋 正治
浜本 研
(愛媛大・放)

術前診断において ^{67}Ga シンチ、 ^{99m}Tc -MDP 骨

シンチが有効であった神経芽細胞腫の2例を経験した。第1例は発熱と右下肢痛があり、左季肋下に腫瘍を触知、尿中 VMA の高値を認めたが骨髄塗沫標本より白血病との鑑別困難なため、 ^{67}Ga シンチ、 ^{99m}Tc -MDP 骨シンチを行ない腫瘍への Uptake から診断し得た。第2例は左前頸部腫瘍があり、胸部レ線より左上縦隔腫瘍が疑われ、 ^{67}Ga シンチにて腫瘍の Uptake が高度に認められ悪性腫瘍が考えられた。

神経芽細胞腫では原発巣への ^{67}Ga -citrate の uptake が高頻度に認められ、骨シンチグラフィ剤の uptake が認められることもあり、骨転移を来しやすいことから、鑑別、病期分類、術後経過観察に両シンチが有効と考えられた。

15. 骨シンチグラムで欠損像を呈した2症例

荻野 隆一 遠藤 健一
(鳥取大・放)

一般に種々の骨疾患は、骨シンチグラム上陽性像を呈するが、欠損像として認められる場合があり、Georgen らは“cold lesion”あるいは“photon deficient lesion”とよんでいる。われわれも最近“cold lesion”を呈した2例を経験したもので若干の文献的考察を加えて報告した。シンチグラムにて cold lesion をきたす疾患として、転移性腫瘍が多く、他に骨梗塞、外傷後無菌性壊死、sickel-cell-anemia で報告されており、x-p にて lytic lesion を呈する場合が多い。われわれの例は、転移性腫瘍と chondrosarcoma であり、骨 x-p では lytic lesion であった。成因として、1例では血管造影がなされており、新生血管もなく avascular area を示し、血流障害を主成因と考えた。1例は生検にて血管が豊富であったため、腫瘍細胞による骨組織の置換が主成因であると考えられた。